

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 特定非営利活動法人ユニバーサルデザイン同夢

1 事業の趣旨・目的

伊賀市は外国人集住都市会議に参加しており、平成 21 年度の外国人登録者数は 4,829 人で、総人口に占める割合は 4.8%である。国籍別ではブラジル人が全体の6割を占めている。市内には多くの製造工場があり、外国人労働者が働いている。定住化していく中で、日本語(ひらがな)を読めても書けない人が多い。学校から届く文書が読めない、理解できない。行政サービス情報が伝わりにくい。等、生活していく上で、さまざまな課題を抱えている。

定住外国人から「日本がわからないので、日本人住民とのコミュニケーションがとれない」「日本語を学習したい」「日本語を教えてくれる場所がたくさん欲しい」という、日本語学習に対するニーズは増加している。

しかし、外国人への日本語指導はボランティアに頼っているのが現状であり、ボランティアが主催している日本語教室は市内中心部に1ヶ所のみで、慢性的に指導者が不足している。「日本語指導ボランティア養成講座」を開催して、定住外国人は共に地域で暮らしていく存在であることを理解し、指導できる人材を養成していくことが目的である。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月 18 日	上野ふれ あいプラザ	船見和秀 和田京子 菊山順子 伊藤由久 西口修身 荻田敏文 乾 光哉 孫 美知	1. 事業の趣旨 2. 委員の紹介 3. 事業の概要について 4. 実施計画について 5. その他	・「案内ちらし(案)」への意見。わかりやすい呼びかけ文の追加とカットを挿入。 ・参加対象者についての検討。
8月 27 日	上野ふれ あいプラザ	船見和秀 仲渡理恵子 和田京子	1. 参加申込者 2. 講座カリキュラム 3. アンケート	・参加者の確認。 ・講座開催日についても広報をする。

		菊山順子 西口修身 荻田敏文 乾 光哉 孫 美知	4. その他	・ビデオ撮影(講座記録) ・参加者アンケート(案)への意見。
11月26日	上野ふれ あいプラザ	船見和秀 仲渡理恵子 和田京子 菊山順子 西口修身 乾 光哉 孫 美知	1. 講座の報告 2. 事業の成果 3. 今後の課題	・参加状況の報告。 ・講座修了後の活動。 ・アンケート結果の検討。 ・参加者への情報提供、講座の開催は必要。

【写真】



[第1回運営委員会 6月18日]



[第3回運営委員会 11月26日]

3 養成講座の内容について

(1) 養成講座名

生活者としての外国人支援のための・・・「にほんご指導ボランティア養成講座」

(2) 養成講座の目標

1. 定住外国人の現状と理解を深め、多文化共生の理念を身につける
2. 定住外国人に日本語を教えるための知識と技術を身につける
3. 定住外国人とのコミュニケーションを高める能力を身につける

(3) 受講者の総数 13人

(4) 開催時間数(回数) 30時間 (6回)

(5) 参加対象者の要件

1. 退職者、退職予定者など、外国人を対象にした日本語の教え方に関心のある人

2. 講座修了後に日本語指導活動をする意志のある人

3. 原則として、すべての講座に参加できる人

(6) 受講者の募集方法

1. 地区市民センター、社会福祉協議会、市民活動支援センター等へ郵送、配布。

2. 伊賀市内小中学校へ配布。

3. マスメディアへ掲載

月日	募集媒体
7月15日	伊賀市社協だより あいしあおう 7月号
8月 1日	広報いが市 2010. 8. 1
8月 1日	伊賀びーと8月号
8月 1日	市民活動ボランティアニュース 8月号
8月 6日	朝日新聞
8月 8日	広報なばり 8-2号
8月11日	毎日新聞
8月31日	中日新聞

(7) 研修会場

伊賀市ゆめぼりすセンター

住所: 〒518-0101 三重県伊賀市ゆめが丘 1-1-4

電話: 0595-22-0310

(8) 使用した教材・リソース

主教材: 「みんなの日本語等」日本語教育に関するテキスト

副教材: 教授者が用意する資料

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
9月4日 10:00～10:30	オリエンテーション	三重大学国際交流センター 講師: 仲渡 理絵子	12名
10:30～12:10	「日本語ボランティアとは」 ・日本語ボランティアとは、どんなことをするのか ・学習者は何を日本語ボランティアに求めているのか		
13:00～16:10	「異文化コミュニケーション」 ・文化とはどのようなことか ・コミュニケーションとは何か ・日本語コミュニケーションの特		12名

	徴		
9月11日			
10:00～12:10	「伊賀市の外国人の現状」 ・さまざまな在住・来日の背景 ・伊賀市の外国人 ・相談から見える外国人住民の現状	特定非営利活動法人 伊賀の伝丸 代表理事 和田 京子	11名
13:00～16:10	「日本語の語彙と意味」 ・語彙とは ・語彙の使用頻度 ・外来語 ・位相(語、表現の使い分け) ・語の意味 ・日本語教育における語彙の指導	国際交流センター日本語教師養成講座 講師:船見 和秀	9名
10月2日			
10:00～12:10	「日本語の文法」	国際交流センター日本語教師養成講座	11名
13:00～16:10	・外国人に日本語を教えるために ・日本語教育／国語教育の違い ・動詞について ・イ形容詞とナ形容詞 ・学習者が疑問に思ったり、まちがえやすい点	講師:船見 和秀	8名
19:00～20:00	「伊賀日本語の会見学」 ・伊賀日本語の会の説明 ・学習者への指導の様子を見学	伊賀日本語の会 代表:菊山 順子	5名
10月9日			
10:00～12:10	「教材教具」 ・語学学習者のための教材・教具の説明 ・日本語学習者用教科書の説明と選び方のポイント	国際交流センター日本語教師養成講座 講師:船見 和秀	13名
13:00～16:10	「日本語の教え方 その1」		11名

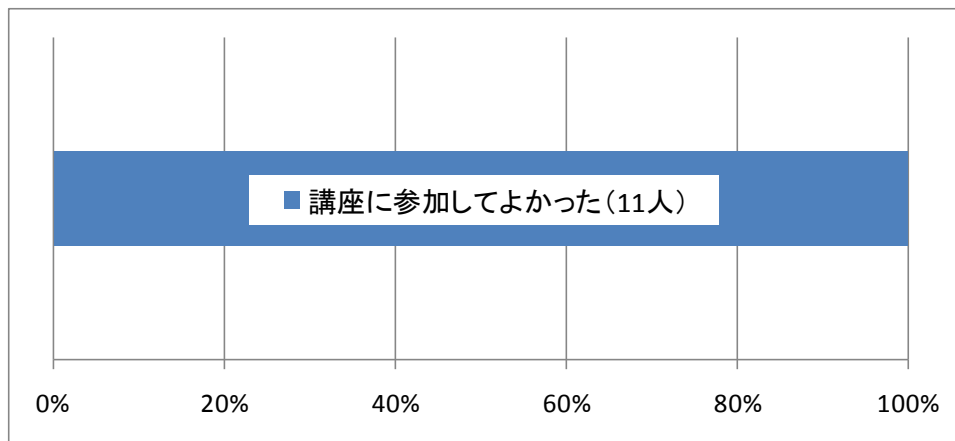
	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を使用して ・会話で ・実物を使用して 		
10月30日 10:00～12:10 13:00～16:10	「教材の作成 日本語の教え方 その2」 <ul style="list-style-type: none"> ・市販教材を使用して体験する ・基本的な文型を教える ・クラス授業を行う時に気をつけたいこと ・ロールカードの作成 	国際交流センター日本語教師養成講座 講師:船見 和秀	8名 8名
11月6日 13:00～14:00 14:10～16:10	「意見交換会」 <ul style="list-style-type: none"> ・講座に参加しての気づき 「多文化共生について知ろう」 <ul style="list-style-type: none"> ・インドネシア、ペルー、台湾の紹介 ・日本語は難しい ・日本で生活して、困ったことやよかったこと 「修了式」 修了証書の交付	定住外国人講師 インドネシア国籍: マスヌン スマエディ ペルー国籍:村井 アデラ 台湾国籍:陳 玲り	10名 10名
19:00～20:00	「伊賀日本語の会見学」 <ul style="list-style-type: none"> ・伊賀日本語の会の説明 ・学習者への指導の様子を見学 	伊賀日本語の会 代表:菊山 順子	7名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

講座参加者: 13名 アンケート回答者: 11名

(1) 講座に参加して



回答者全員が「よかった」という感想である。

(2) 講座に参加した感想

- ・「日本語に興味があった」と「無料」だということで、この講座に参加したが、講座内容や参加されている方々にも刺激をもらい、とても有意義でした。
- ・「外国人にどのように日本語を教えるか」ということに興味があつて参加したが、まずはその国の人たちの文化、考え方の違いなどを知ることが大切なことを改めて実感しました。
- ・参加してとてもよかったと思います。無理なく講座に出席できたと思います。
- ・楽しい講義でした。
- ・とても勉強になり、楽しかったです。ありがとうございました。
- ・船見先生が最後に話されたように、「指導ボランティアは？本来あるべき姿になれば良いなあ〜」と思います。「指導」って興味深い。授業、講座も演奏と同じなんだ。同じ作品を全て同じように演奏する事は無いのと同じように。
- ・たいへん貴重な知識を得ることができました。運営も非常に良かったと思います。今後、この講座で得たものを活かせるものと考えております。ありがとうございました。
- ・この年になって新しい経験ができて喜んでいきます。楽しい講座でした。全日程にも参加できました。運営も良いと思います。
- ・外国人に教える文法にカルチャーショックを受けました。アイスブレイクなどもされていてよかったと思います。

②実施主体からの研修内容結果評価

- ・講義内容は受講者にわかりやすく、興味もてるように、アイスブレイクを取り入れ、身近な素材をテーマにする工夫ができた。
- ・日本語指導ボランティアの活動を知るために、ボランティアグループの見学活動学を実施し

て、活動現場を知ることができた。

- ・外国人当事者の考え方を理解する方法として、3人の定住外国人から、話を聞くことで、多文化共生の理念を身につけることができた。
- ・受講生の一人から「モデル(講師)と出会い、日本語教師としての将来の方向性を決めることができた」という言葉があり、日本語教師への支援ができた。
- ・講座受講生の進路

日本語指導ボランティアへ参加	1名
「学習支援教室ささゆり」へ参加	1名
日本語教師養成講座	3名

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

多くの人たちが定住外国人への理解を深め、活動を始めるきっかけの場づくりとして、「にほんご指導ボランティア養成講座」の開催を継続していく。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

- ・伊賀市教育委員会主催
「2010伊賀地区外国につながりをもつ子どもと保護者の進路ガイダンス」へ参加者がボランティアスタッフとして参加。
- ・伊賀市社会福祉協議会「市民ふくし大学講座」の専門講座として位置づけられる。
(専門講座は概ね20時間程度の専門講義・実習および現場実習が必要)
専門講座受講者は基礎講座を受講することで、「いが見守り支援員」として、居宅を訪問して、見守りや話し相手としての支援活動を行うことができる。

② 研修後の人材活用

- ・伊賀市文化国際協会主催:「学習支援教室ささゆり」学習指導
- ・「伊賀日本語の会」日本語指導ボランティア
- ・特定非営利活動法人伊賀の伝丸主催:「就職のための日本語講座」
ティーチングアシスタント

(12) 今後の課題

・講座の広報

講座終了後に「講座開催を知らなかった」「受講しなかった」という声を聞いた。広報は時間をかけて、さまざまな媒体をとおして、伝わるようにしていくことが大切である。また、講座の趣旨が伝わるような内容にしていくことで、多くの参加者を確保していくこと。

・講座の内容

講義だけでなく、学習者に実際に教えてみるという「模擬実習」のような内容を取り入れる。学習者から指導方法に対する要望を聞く。指導ボランティアとして活動できるように、学習内容

については実践的なものになるように検討していきたい。

- ・参加者の活動の場所の創設

市内に日本語ボランティアが活動できる場所は1ヶ所のみである。日時が合わない場合は活動できないことがある。参加者が指導者として活躍できる場を創設していくことが求められる。

- ・ボランティアの学習の場の確保。

教えることをとおして、自らの学習の必要性を感じる人が多い。指導ボランティアとしての学習の場が求められる。

- ・良質な日本語指導者の育成

日本語指導＝ボランティアではなく、ボランティア(無償)から仕事(有償)にしていくことで、責任を持った良質な指導者の育成ができる。